

新火葬場地域経過報告会でのおもなご意見について（報告）

【参加者数】

（笠原地域）	日 時	平成 22 年 9 月 16 日（木）午後 7 時～午後 8 時 30 分
	場 所	笠原消防会館
	参加者	38 人
（南姫地域）	日 時	平成 22 年 9 月 17 日（金）午後 7 時～午後 8 時 30 分
	場 所	南姫公民館
	参加者	39 人
（根本地域）	日 時	平成 22 年 9 月 18 日（土）午後 7 時～午後 8 時 30 分
	場 所	根本公民館
	参加者	46 人

【笠原地域】

○質問 全国的にも近年建設される火葬場にはセレモニーホールを備えた火葬場が多いように感じます。新火葬場建設の際にはセレモニーホールも建設する予定がありますか。

セレモニーホールを建設すると、来場者用の駐車場など、より広い敷地面積を要し、事業費も増大することから建設の予定はありません。また、多治見市内には、既に民間の経営するセレモニーホールが 8 箇所あり、今後も、民間業者に任せていきたいと考えます。

○質問 民間のセレモニーホールがあっても、市民は、市営で民間より安く、安心して利用できる施設を必要としているのではないのでしょうか。

土岐市では火葬場にセレモニーホールを併設しているため確認したところ、建設当初は利用者も多かったようですが、最近では民間のセレモニーホールが整備され、市営施設の利用者は減ってきているとのこと。多治見市では、これまで市にセレモニーホールがなかったことから民間事業者が事業を拡張してきたという経緯がありますので、これまで通り、民間にまかせていくという方向で進めていきたいと考えています。

○質問 笠原の敷地面積は約 85000㎡と大変広いですが、何か他の整備も行う予定がありますか。また、新しくできる火葬場の管理は市で行いますか。

笠原町の候補地は埋め立て処分場を含んでいるため、他の候補地と比較すると大変広い面積になっています。こうした処分場を新たに確保することは大変困難ですので、その部分は今後も活かしていきたいと考えています。新火葬場の管理については、指定管理者制度を利用し、民間に任せたいと考えています。

○質問 近隣に住む者として建設には反対です。今日の説明会は高齢者など、来場することができない人も多くいます。行政から住民の方へ出向いて意見聴取や説明をするべきではないですか。

関係する全ての皆さんの元へ、出向いてお話を伺うのが理想ではありますが、現実的には難しい部分もありますので、各候補地で皆さんに集まって頂き、説明会を開催しています。本日報告会にお越しいただけなかった方には、第 1 回と同じように内容をまとめて、町内回覧をさせていただくよう予定していますのでご理解をお願いします。また、ご希望があれば、再度説明会を行うことについても検討していきたいと考えます。

○質問 今までごみを焼却していた場所で火葬をするということには大変抵抗があります。

焼却場の建物は取り壊して整備するよう予定しています。建物の外観はもとより、周辺環境の整備などにもできる限り配慮した整備を行って、厳かな雰囲気のある施設にしたいと考えています。

○質問 地場産業が低迷する中で、火葬場のような施設が造られると、笠原町のイメージがより暗くなるように感じて心配です。

どの地域に建設しても、喜ばれる施設ではないことは十分承知していますが、市民の皆さんにとって必要な施設でもあり、どこかに造らなければならないということも事実です。今後、4 つの候補地の中で適地と考えられるところを、建設検討委員会の中で選定していきたいと考えます。

○質問 合併特例債を利用しても借金をすることには変わりありません。しばらくは景気がよくなる見通しもないように感じますが、将来支払いをしていける見込みはありますか。

総合計画の中で火葬場の建設を位置づけし、合併特例債の将来的な返済の見込みも立てており、今後 15 年ほどかけて返済する予定です。

○質問 合併してまだ間もないのに、笠原町にこういう施設を押し付けるのはどういうことですか。

新火葬場建設の検討については、平成 13 年から総合計画の中に位置づけているものであり、合併したから検討をし始めたというものではありません。また、候補地についても、複数の候補地から条件を絞り込んだ結果、最終的に選ばれたものであり、ご理解を頂きますようお願いします。

○質問 昔からごみの埋め立てをおこなってきた場所であり、建物の下にも様々なものが埋め立てられているはずですが。人生の最後を迎える場所としては心情的に抵抗があり、あまり相応しくないように感じます。全国にもそういう例はあるのでしょうか。

4 つの候補地は、市全体の候補地調査の中で、主要な道路から直接敷地に入ることができる場所、周囲に緑地帯などを設けることができ、景観等に配慮できる場所、取り付け道路の整備などに多額の費用を必要としない場所といった 3 つの条件から絞り込みを行ったものです。また、全国的な例としては、三重県亀山市に廃棄物処分場に近接した火葬場があります。

埋め立て場跡地としての心情的な抵抗につきましては、ご意見として受け止め、今後候補地選定を進めていきます。

【南姫地域】

○質問 平成13年の総合計画から、火葬場の建て替えについて検討を始めていたとのことですが、合併特例債を使って駅の整備や道路改良をした際に、なぜ、現在の火葬場への進入道路を改良することを検討しなかったのですか。

多治見市の財政状況が厳しく、投資的経費が減少傾向であったこともあり、建設に約17億円、用地造成、道路整備を含めると20億円を越える費用を必要とする火葬場の建設には、財政的に着手できない状況がありました。その結果、総合計画の様々な事業の中でも優先順位が低くなったという経緯があります。

○質問 現在の火葬場の隣接地に新火葬場を建設して、進入道路についてはあとから整備することはできませんか。

道路の改良には多くの費用を要しますので、合併特例債という有利な制度を利用できる期間に、可能な限りおさえた金額で同時に建設していきたいと考えます。

○質問 費用を抑えることを考えると、市有地である大藪町のため池と笠原町の候補地で検討すればよいのではないかと思います。さらに民有地を2ヶ所加えている真意を教えてください。

前回の候補地選定委員会から、市有地を中心に候補地を検討してきた中で、地権者等からのご提案もあり、民有地も加えて、条件に当てはまる候補地として絞り込みを行いました。市有地で建設すれば用地取得の費用は必要ありませんが、候補地をとりまく状況がそれぞれ違うため、用地取得費用にかかわらず、造成費等の建設にかかる費用には差が生じます。費用の大小は候補地選定の1つの要素であると考えています。なお、前回の選定委員会において、市有地をつぶさに検証いたしました結果、最終的に37箇所絞り込み、その中から今回の候補地が選定されています。そのため、この段階で、市有地につきましては調査がし尽くされていたということです。なお、ため池については、当時は承知していませんでしたが、その後、県からため池としての機能はないとの返答もあったことから新たに候補地として加わったものです。

○質問 第5回の建設検討委員会で現地確認を行った際には、松坂町の候補地において、反対行動により現地へ入れなかったと聞いていますが、現地調査は実施できましたか。

8月30日に第5回の検討委員会を行い、その中で4箇所の候補地について、再度現地確認を行いました。松坂町の候補地は雑木林であり、もともと候補地の中に入る予定はなく、候補地の外から全体の状況を確認しました。また、近接する住宅団地にも足を運び、候補地

との距離や見え方などについても確認を行いました。

○質問 笠原町の知人から、建設は笠原町に決まったという話を聞きましたが本当ですか。

昨日笠原町で報告会を行いました。意見交換の中では反対意見もあり、笠原町が地域全体として賛成しているという状況はありません。候補地の選定はこれから行っていきます。

○質問 前回の大雨の際にも、中川が溢れて被害を受けました。ため池をなくしてしまうと、今以上に被害が大きくなる心配があります。何らかの対策は考えてありますか。

ため池を埋め立ててアスファルトを敷くと、雨水の流出が増えることは予想されます。調整池を設け、また、関連する河川の流下能力を計算して調整池の大きさや河川の流量を計算して改修工事等の対策も講じていきます。

○質問 火葬場の建設は膨大な費用がかかります。赤字になった場合、市民が負担を強いられるのではないかと心配です。

有利な制度である合併特例債を利用して、適正な範囲で借金をしながら進めていくというのが基本的な考えです。維持費については、必要経費をすべて利用者に負担していただく訳にはいかないので、近隣市町村の状況も考慮しながら料金設定等していきます。

○質問 ため池の候補地に関して用地買収はすすんでいるのでしょうか。

現在は候補地を選定している段階であり、地権者の意向についての事前確認は行なっていますが、用地買収については進めていません。

○質問 バイパスを通らずに善師野多治見線を通る車があった場合、峠の付近は大変道幅も狭く、生活道路として利用している地元住民としては非常に迷惑を被ると考えられます。また、248号バイパスも西高付近では年中渋滞しており、車両台数が増えることは渋滞を悪化させる心配があります。

基本的に葬儀会社へは248号バイパスを使用するよう、依頼していきたいと考えていますが、多治見善師野線を使用する利用者もあるかもしれません。幅の細い道については、道路の危険箇所なども点検し、必要があれば県に改良を依頼するなどして対応していきたいと考えます。また、248号バイパスの渋滞につきましては、すぐに解消できる問題ではありませんが、課題として受け止めます。

○質問 設備の問題で、ダイオキシンは「ほとんど出ない」とのことですが、「ほとんど」ということは「出る」と受け取ってよろしいですか

排気ガス中のダイオキシン濃度については、旧厚生省が「火葬場から排出されるダイオキシン類の削減対策指針」を示しています。具体的な数値としては、新設した炉の排ガス中ダイオキシン濃度は $1 \text{ ng} / \text{Nm}^3$ と示されています。炉メーカーに確認したところ、近年稼働している他市の火葬場もこの数値を下回っており、基準を満たす施設の建設は十分可能だと

考えています。

○質問 先日、30区として火葬場建設に関する委員会を設置しました。今後は区の委員会や地元の皆さんにしっかりと情報を流していただきますようお願いします。

前回の報告会で情報が遅いというご指摘をいただきましたので、迅速に対応させていただくような体制を組みました。今後も委員会の検討状況等につきまして迅速に情報を公開していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○質問 新しい火葬場についても、これまでのように、一部の業者に火葬場の管理を任せるのですか。

市では現在、指定管理者制度により、多くの施設の管理をおこなっています。新しい火葬場についても、この指定管理者制度を使用して施設の運営や維持管理を行っていきたいと考えています。

○質問 現在は小規模な家族葬をされる方が非常に多くなっているようです。家族葬のできる小規模なものでよいので、貸しホール的な施設をつくってもらえませんか。

前回の報告会で説明のとおり、市内にはすでに8箇所の民間セレモニーホールがあり、現段階で、同様の市営セレモニーホールを建設するという考えはありません。しかし、今回、小規模な家族葬のできるような施設をつくってはどうかというご意見をいただきましたので、新たなご意見として受け止めさせていただきます。

○質問 民間業者を圧迫するのでセレモニーホールは造らないとのことでしたが、既存の業者の既得権を維持することだけでなく、建設する地域の発展につながるような考えも持って、開発をすすめてください。火葬だけ済ませて帰っていくという施設では、地域にとって単なる迷惑施設でしかありません。誰でも反対するのが当然だと思います。もっと地域の発展につながるよう開発を考えていってください。

ご意見として受け止め、火葬場をつくることによる地域の発展についても、機を捉えて検討していきたいと考えます。

【根本地域】

○質問 松坂町の候補地は道路事情に問題があると思います。248号バイパスは西高付近で常に渋滞しているので、更に悪化するのではないかと心配です。松坂町1丁目及び3丁目の交差点での渋滞への対応として、松坂町3丁目と北丘町をつなぐ道路を造ることはできませんか

渋滞箇所については、右折箇所では車線を増やすなどの改良を検討していきますが、全市

的な道路整備は難しく、新しい道路の建設については現在のところ考えていません。

○質問 他の候補地と比べて、松坂町の候補地だけ周囲に多くの住宅があります。現段階で松坂町を候補地から削除できませんか。

候補地はそれぞれ周辺状況が違います。検討委員会でも、周辺状況は選定の重要な要素と捉え、2回の現地確認を行い4候補地について検討を進めていく予定です。

○質問 検討委員会の委員がこの場に出席していないのは納得できません。この場で地元住民の生の声を聞く必要がありませんか。

検討委員会へは、報告会でいただいたご意見はもちろんのこと、ファックスやメールでいただいたご意見についても、事務局よりつぶさに報告しています。委員会では第1回報告会で出た地元の皆さんの意見についても、検証するために2回目の現地調査を行いました。

○質問 今後どのように選定が進められるのですか。

絞り込みの方法については、現在委員会で検討している段階です。今後は、委員会から候補地の中で最も相応しいと考えられる場所について答申を受け、最終的に市が建設地を決定します。

○質問 建設検討委員会はどのようなメンバーで構成されているのですか。

ホームページでも公開していますが、学識経験者として人間環境大学の副学長、中部大学の先生、名古屋産業科学研究所の研究員の3名の方、また、市民委員として、区長会の代表、社会福祉協議会の理事、河川自然環境保全復元団体の代表の方で構成されています。なお、候補地が決定した後は、候補地の区長さんにも加わって頂き、最終的には7人の委員で検討を進める予定です。

○質問 今回の説明は、前回の内容を少し詳しく述べられただけで話しが進んでおらず、せっかく都合をつけて参加したのに残念です。他の候補地ではどのような意見が出たのかももう少し詳しく話してください。

今回の報告会は、前回質問の多かった点についてさらに詳しく説明したものです。当該地区でいただいたご意見につきましては、前回同様、町内回覧をさせていただきます。また、他の地区でのご意見等については、ホームページに掲載していますのでご覧ください。

○質問 松坂町はいつから候補地に上がったのですか。

昨年8月に市役所内でプロジェクトチームを作り、新たな条件を加えて適地を探した結果、候補地として挙がってきたものです。

○質問 火葬場のような施設ができると地価が下がることはありませんか。

不動産鑑定士によると、100メートル以内にこうした施設がある場合、最大で2%ほど

下落する可能性があるとのことですが、鑑定士の主観的な要素が大きいとのこと。

○質問 建設地の周囲に住む人は心情的に嫌な思いを強いられると思いますが、そのことに対して、市からなんらかの配慮はありますか。

市としては、外から直接見えないよう周囲に緑地帯を確保することや、文化施設的な外観を呈する建物にするなどの対応、また、交通状況の改良などについて配慮させていただきます。

○質問 付近には小さな子どもも多く、また、根本駅の周辺などは道幅の狭い箇所もあり、交通量が増えて事故など起きないか心配です。

火葬が行われることに伴って、交通量が増えるということもあるかと思いますが、渋滞は交通量だけではなく、右折レーンの有無や道幅の影響なども大きいと考えます。

○質問 委員会の構成委員に区長さんが加わっているとのことですが、どの地域の方ですか。各候補地から加わっていますか。

該当地域の区長さんは地元との関係もあり、候補地選定を行うことは難しいと考え、候補地と関係のない方に入って頂きました。ただし、候補地決定後は、施設や周辺状況をどうするのかといった、施設の中身の話になりますので、地元の声をお聞きするためにも地域の区長さんに加わって頂き、実際の計画作りにご意見を頂きたいと考えています。

○質問 先日の先進地見学会に参加しました。参加するまでは近くにできては困っていましたが、建物や設備は従来の火葬場のイメージとは異なる立派なものでした。現場の方の説明によると、羽島市では2年に1度ほど副葬品の影響で苦情があるとのことでしたが、関市は過去6年ほどの間に1件も苦情が無いとのこと、それほど懸念する施設ではないのではないかという気持ちに変わりました。必要な施設ですので、お互い忌み嫌ってあっちへ行けというのではなく、できるだけ多くの人の総意をもって場所を決定していただきたいです。

最近の施設を直接見ていただくのが一番よく理解していただけたと考え、見学会を実施しましたが、3地区から16名の方のご参加でした。羽島市の施設については、2年に1度ほど苦情があったとのことでしたが、これは花や果物など副葬品の影響であったと聞いています。また、関市については、副葬品についての協力もあるかと思いますが、羽島市との違いとしてバグフィルターを設置していますので、これにより苦情がなかったと理解しています。

○質問 今年の1月に、この地域で市から土地を購入しました。購入を申し出た時に、火葬場の候補地があることをどうして教えてもらえなかったのですか。

4箇所に絞られていない段階で、議会、区長会、笠原審議会などへ報告させていただきましたが、それぞれの区によって周知の仕方も異なり、ご存じない方もあったことは承知しています。火葬場の候補地としては、検討の途中であり、この情報だけ取り出して個々に詳しく説明をするという状況にはなっていませんのでご理解をお願いします。

○質問 現火葬場のアクセス道路についての説明で、北に抜ける道路のルートが不自然に感じます。用地買収などして直接幹線道路に接続することは検討されなかったのですか。

ご指摘の道路は坂道になっているため、ここに進入路を接続すると道路構造上危険性があること、また住宅団地を通らないルートということで、北へ抜けるよう考えたものです。なお、道路の拡張については、関係する地権者と長瀬町との関係もあり、断念したものです。

○質問 説明に際しての資料が不足していませんか。入口はどこになるのか、また外からの見え方や建物の大きさ、池とはどのようなものなのか、道路に関しても通行車両はどの程度予測しているのかなど、もう少し詳しく説明していただきたいです。

入口は生コン事業所の下の入りの反対側を検討しています。また造成の高さは、道路に対して10メートル程の高さを設定し、緑地を配置して周囲の自然と調和した形をとりたいと考えています。こうした大規模な造成を行う際は、雨などへの対応として調整池を作ることになっていますので、周囲の自然と調和する池を造るよう検討しています。多治見白川線は、県道ですので、県と協議しながら進めていきたいと考えます。なお、右折車線はすでにありますので、右折信号の設置について、警察と協議していくことになります。通行車両については、現在、年間約1000体の火葬を行っていますので、多くても1日当たり100～200台程度を想定しており、火葬の関係車両でそれほど渋滞するとは考えていません。建物の大きさについては先進地等の事例から、1階ないし2階建てを想定しています。